

“桜”をはじめ“花”を描いた作品を特集展示  
陶器などの工芸作品も楽しめて、皇居・千鳥ヶ淵の桜との競演も見どころ  
**「美術館の春まつり」**

東京国立近代美術館は皇居や千鳥ヶ淵、北の丸公園といった桜の名所エリアに立地しており、散策で巡るにも絶好のロケーションにあることから、桜の開花にあわせて様々な催しを開催します。

展覧会では、日本画、洋画、海外作品などに加え、陶器、染織などの工芸作品も一緒にご覧いただけます。桜が描かれた重要文化財作品《行く春》を年に一度、この時期だけ公開するほか、花を描いた作品が並ぶのが見どころです。

対話によるガイドプログラムやお花見弁当などの飲食販売、さらには4月7日の無料観覧日に開催する特別企画「春まつりトークラリー」など、楽しい企画も盛りだくさんです。



### 期間と会場

- 期間: 2019年3月19日(火)–4月7日(日) ※4月7日(日)は所蔵作品展、杉浦非水展のみ無料観覧日
- 会場: 東京国立近代美術館本館および工芸館

### 展覧会

- 本館: ○所蔵作品展「MOMAT コレクション」(3月19日–5月26日、4–2F)

明治から現代まで100年を超える日本美術の流れがご覧いただける所蔵作品展「MOMAT コレクション」。

今期は特集として、会場内の1室に花を描いた作品が並びます。桜を描いた重要文化財作品の川合玉堂《行く春》を年に一度、この時期だけ公開するほか、跡見玉枝《桜花図巻》には、しだれ桜、うこん桜、おおしま桜といった40種類を超える希少な桜が描かれ、千鳥ヶ淵や美術館周辺の桜との競演をお楽しみいただけます。他にも加山又造《春秋波濤》、船田玉樹《花の夕》、松林桂月《春宵花影図》などの名画が並び、花を描いた作品は全16点に及びます。

会場全体では、今回初めて、初代宮川香山《鳩桜花図高浮彫花瓶》、木村雨山《縮緬地友禅あおい文振袖》などの工芸作品も一緒にご覧いただけます。さらに安井曾太郎、梅原龍三郎などの洋画、ポール・セザンヌ、パウル・クレーなどの海外作品も並び、特集展示以外にも会場の各所に点在する、花を描いた作品を探しながらの鑑賞もお楽しみいただけます。



川合玉堂 《行く春》 1916年 重要文化財



初代宮川香山 《鳩桜花図高浮彫花瓶》  
1871–82年頃

- 「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」(3月12日–5月26日、1F)

- 「イメージコレクター・杉浦非水展」(前期:2月9日–4月7日、後期:4月10日–5月26日、2Fギャラリー4)

- 工芸館: ○「The 備前 ー土と炎から生まれる造形美ー」(2月22日–5月6日)

### 様々な催し

○まるで作品の謎解きをするような鑑賞体験: 本館では、対話による鑑賞プログラム、所蔵品ガイドを毎日14時から開催するほか、4月7日の無料観覧日には年に1度の特別企画「春まつりトークラリー」を開催します。

○お休み処で飲食を: 本館では、前庭に床几台によるお休み処をご用意。レストラン「ラー・エ・ミクニ」によるキッチンカーが特製お花見弁当やスパークリングワイン(桜色のロゼ)、甘酒などの飲食販売を行います。



## 詳細

### ■ 展覧会開催概要

○本館 所蔵作品展「MOMAT コレクション」(会期:3月19日-5月26日、4-2F)

観覧料:一般500円、大学生250円(金曜・土曜の17時以降は一般300円、大学生150円)

※高校生以下および18歳未満、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料

※当日に限り、本展観覧料で「イメージコレクター・杉浦非水展」もご覧いただけます。



跡見玉枝《桜花図巻》(一部) 1934年  
全25図に40種類を超える希少な桜が描かれている。これはその1部。



松林桂月《春宵花影図》1939年

○本館 「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑い飛ばせ」(会期:3月12日-5月26日、1F)

1930年代に日本にシュルレアリスムを紹介して前衛美術運動のリーダーとして活躍した福沢一郎。謎めいたイメージの中に知的なユーモアをまじえ、社会の矛盾や人々の愚かさを諷刺的に笑い飛ばした多彩な画業を紹介します。

観覧料:一般1,200円、大学生800円、※高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方とその付添者は無料

※当日に限り、本展観覧料で本館の全展示(所蔵作品展「MOMAT コレクション」、「イメージコレクター・杉浦非水展」)がご覧いただけます。

○本館 「イメージコレクター・杉浦非水展」(前期:2月9日-4月7日、後期:4月10日-5月26日、2F ギャラリー4)

日本におけるグラフィック・デザインの創成期に活躍した画家の杉浦非水(1876-1965)の多彩な活動を紹介します。

○工芸館 「The 備前 一土と炎から生まれる造形美」(2月22日-5月6日)

釉薬を施さず土と炎と造形から生まれるやきものとして古くから多くの人々を魅了してきた備前焼に焦点を絞り、歴史的な名品から現代陶芸家の作品までを通して、その魅力に迫ります。

### ■ ガイドプログラム

#### ○ 所蔵品ガイド

作品解説を聞く一方向的なものではなく、ガイドスタッフと参加者の皆さまが対話しながら、まるで作品の謎解きをするような鑑賞体験ができると評判のガイドプログラム。毎日14時から開催。無料(観覧料別)でどなたでも参加できます。

#### ○ 春まつりトークラリー

4月7日の無料観覧日に開催する特別企画。ガイドスタッフが20以上の作品の前で皆さんをお迎えします。対話による鑑賞を楽しみながら作品を巡り、スタンプ3つ以上で特製カンバッチをプレゼント。4月7日(日)12:00-15:00、先着2,000名様

#### ○ タッチ&トーク(工芸館)

作品を触ったり、会話をしたりしながら、作品の理解を深めていただけます。水曜・土曜の14時から開催。無料(観覧料別)

### ■ まつりを彩る飲食やグッズ

本館では、前庭に床几台によるお休み処をご用意し、レストラン「ラー・エ・ミニ」のキッチンカーによる特製お花見弁当やスイーツ、ソフトドリンク、スパークリングワイン(ロゼ)、甘酒などの飲食販売を予定しています。

またミュージアムショップでは、新作のオリジナル商品を販売するほか、千鳥ヶ淵の桜の枝で染色したスカーフなどを期間限定で取り扱い、売上の一部は桜の保全活動「さくら基金」に寄付します。

### ■ 美術館概要

◆会場:東京国立近代美術館(東京都千代田区北の丸公園3-1) 東京メトロ東西線「竹橋駅」(1b出口)徒歩3分  
東京国立近代美術館工芸館(東京都千代田区北の丸公園1-1) 本館から徒歩5分

◆休館日:月曜日(ただし、3月25日、4月1日は開館)

◆開館時間:10:00-17:00 本館のみ金曜・土曜は20:00まで(いずれも入館は閉館30分前まで)

◆お問い合わせ:03-5777-8600(ハローダイヤル) <http://www.momat.go.jp>(ホームページ)

### 報道関係のお問い合わせ先

広報室 三輪、紀太(きだ)、有馬 TEL:03-3214-2564 FAX:03-3214-2576 e-mail:pr@momat.go.jp

工芸館 島田 TEL:03-3211-7781 FAX:03-3211-7783 e-mail:kogei-pr@momat.go.jp